

木材加工を視察

富士地域森林県民円卓会議

森林との共生について、地域住民の意見を集めるために県が設置している「富士地域森林県民円卓会議」は21日、富士市大淵の住宅資材



販売のマルダイで現場視察を行った。平成18年から2年ずつの任期で開かれており、第3期の今年は「県産材の活用」をテーマに据えている。同会議運営プレカット工場を視察する参加者ら

委員の学識経験者や富士市、富士宮市、沼津市、三島市から公募の県民委員や森林業関係者など10人余が出席し、視察では地域の木材の供給、流通の全体の流れを見て理解を深めた。マルダイ木材事業部

佐野企画部長は県産材の積極的な利用を推進する「しずおか優良木材認証制度」などを受け、一時期より利用率は上がっていると説明した。同社では、人間の手が入らず荒れた山にも植林と伐採のサイクルをつくり、木を使うことで森を守る「Sマにつくられた制度」

「Sマにつくられた制度」でできるプレカット工場では1時間で5坪分の木材加工ができ、スピーディーでローコストなどの利点を紹介した。GEC」に認証された森林材を取り扱っていることや、同社が1年間に扱う6万立方メートルの木材で、県産材は10%の6000立方メートル(富士の材木は2000立方メートル)であることも示された。